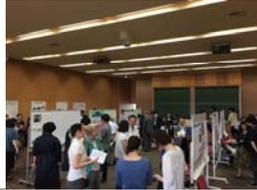


## Happiness Meeting 2018 を終えて

主任 渡部 博志



(Happiness Meeting 2018 会場の様子)

研究員相互の交流に留まらず、新たな共同研究のきっかけ作りの場として毎年開催しております Happiness Meeting を、今年は8月8日に有明キャンパスにて開催されました。はやいもので今回で3回目の開催となります。

昨年同様に、第一部は研究員を中心とした研究発表セッション、第二部は交流会という形で開催いたしました。

第一部の研究発表セッションでは、本研究所が研究費の助成を行っている「しあわせ研究」の今年度採択者を中心に24件の研究発表がポスターセッション形式で行われました。あわせて、しあわせ研究所の研究員の先生方にご担当いただいております、全学向けの授業「しあわせを考える」の受講生による「わたしたちが実現したい『しあわせのカタチ』」について、7グループが同じくポスターにて発表されました。

ポスターセッション形式での発表は、昨年度が初めての試みでしたが、今年度は2回目ということもあってか、研究員の方々の発表がより一層分かりやすく且つ高度に

なっているように感じられました。

また、会場となった有明キャンパス3号館は、屋上が菜園となっており、そちらの見学ツアーも行われました。

第二部では、まず Creating Happiness 賞の授与式が行われました。同賞は、しあわせ研究所の設立を機に創設された、日々の生活の中で実際に幸せをカタチにした教職員や学生に贈られるものです。

今回の受賞者は、法学部法律学科3年生の石井紗穂さんが選ばれました。石井さんは、カンボジアにおいて孤児院でのボランティア活動や、経済的理由から満足に教育を受けられなかった人たちへ日本語を教えるといった活動に従事されてきました。カンボジアの人々にとって何がしあわせなのかを考え、活動されたことが、まさに「世界のしあわせをカタチにする」取り組みであるということで受賞されました。

授与式後、所長である西本学長よりご挨拶をいただき、軽食をとりながらの交流会へと移りました。普段はなかなか機会のない、学部学科を超えた交流の場として研究のアイデアが交わされるなど、まさにインキュベーションとして今後に向けたきっかけ作りが行われていました。最後に副所長である池田副学長より閉会のご挨拶をいただき、大勢の方にお越しいただいた Happiness Meeting を終えました。